

立川 宇都宮さんとともに宣伝行動 新しい都政を確立し 日本政治を変える



応援しようと訴えました。

6月13日、「2020 都民政策会議」は、「私たちの声を受けとめてくれる宇都宮けんじさんを都知事にしよう」と、立川駅北ロデッキにて宣伝しました。宇都宮けんじさんは、コロナ感染対策でフェイスガードとマスクを使い立川駅北ロデッキを行き交う市民に「3度目のたたかいになります。今回の選挙は、都民ひとり一人の、生存権がかかったものになります。新しい都政を確立することは、日本全体の政治を変えることにつながると訴えました。

この行動には都民政策会議、立川市民連合、NPO サンキューハウス、政党では司会を務めた緑の党の山本洋輔市議、日本共産党立川市議、日本共産党昭島市議、元立川市議なども何としても都政を変えよう。そのために宇都宮さんを

「革新都政をつくる立川昭島の会」キックオフ集会



6月13日夜、梅雨入りし雨が降る中で、革新都政をつくる立川昭島の会は、リスル小ホールにて、キックオフ集会を開催。コロナ感染対策でホール定員の半数で計画、入場前に検温を実施、手のアルコール消毒をして入場するというので約90名が参加しました。開会あいさつで代表世話人の草島健二さん(健生会理事・医師)が、会として宇都宮けんじさんの推薦を発表。宇都宮さんからのメッセージを紹介。市民団体からは立川市民連合、新日本婦人の会立川支部、立川労連から、歓迎と必ず勝利しようと発言。

都政の実態を池川友一共産党都議会議員がプロジェクターを使い分かり易く報告され“ウンウン”とうなずき聞き入る参加者の姿が目立ちました。

集会には立憲民主党の大河原衆議院・稲橋立川市議、酒井前立川市長候補、緑の党の山本市議会議員、社民党の青山昭島市議らが参加しました。(※永辰文)

清瀬 都政を変えよう！ キックオフ集会 70人余

6月14日、「都政を変えよう清瀬市民の会」が主催する「みんなの力で都政を変えよう！キックオフ集会」は70人を越える市民で開かれました。教育、青年、高齢者、医療の各分野から、市民と野党の共闘で都政の転換を期待する発言が寄せられました。高齢者にとって、ウィズコロナなんていわれ、コロナが隣に居座られては困るんですという発言など、弱い人などにしわ寄せがきていることなど、つぎつぎ発言が続きました。都立病院の充実を求める会代表の氏家さんから、「宇都宮健児 VS 小池百合子～都民の代表にふさわしい人は？～」と題して、お話をうかがい、都民ひとりひとりの生存権がかかっている選挙を、宇都宮健児さんを都知事にと闘う決意を強くしました。宇都さんの勝利で都民、国民の命と暮らし、営業と雇用を守る政治への転換の道を開こうと、集会宣言を確認しました。

